

犬の生理はいつからいつまで続く？生理期間・発情周期に関する基礎知識と避妊手術の重要性について

避妊手術をしていない雌の愛犬を迎える飼い主さんは、避妊手術を行う予定がないのであれば、犬の生理に関する基礎知識を身につけ、犬の習性に付き合っただけで必要となります。



犬の生理の始まる時期とは？



犬の生理は、生後6～10ヶ月頃を目安に始まるとされており、わんちゃんによっては生後1年を経過してから始まることもあります。小型犬で5～7ヶ月、大型犬で8～12ヶ月の間隔で、年1～2回の生理がみられます。高齢になるにつれて、生理の間隔は開き、出血量も減るものの、人間のように閉経することはないのが特徴です。

犬の生理の主な症状



① 落ち着きがなくなる

特に発情前期には、落ち着きがなくなり、動き回るような素振りを見せることが増えます。また、散歩に行きたがらなくなるといった症状もみられます。このような症状は生理的な行動であるため、見守ってあげることが重要です。

② マウンティングをする

発情期の間は、雌犬の場合でも、他の犬や目につくものに陰部を擦り付け、マウンティングと呼ばれる行為を行うようになります。この行動は、雄犬を受け入れる状態となったことを示す行動となります。

③ 元気がなくなって食欲減退する

犬の生理中は元気がなくなって、食欲減退する個体もいます。ご飯をあまり食べなくなってしまった場合には、愛犬が好きな食材を加えたり、スープを使って食べやすくしたりするなど、工夫をしてあげてください。

犬の生理中の注意点

① 犬の生理中は室内の汚れ対策を万全に

犬の生理中は、サニタリーパンツや紙オムツを履かせてあげたり、床にトイレシートやマットを敷いてあげたり、ソファなどにはカバーを敷くなど、血液が室内のあちこちに付着して残らないように工夫が必要です。また、清潔なタオルやコットン生地を温かいお湯で濡らしたうえで、愛犬の陰部を優しく拭いてあげると、床に落ちる血液の量を少なくすることができますのでお試しください。

② 食欲が落ちているときは嗜好性を上げる工夫を

愛犬が生理中で、食欲をなくしている場合には、ドライフードを水でふやかして食べやすくしたり、フード自体を温めたり、鶏肉の煮汁や魚介類などの低温スープを用意したり、ドライフードに好物を混ぜたりするなど、食欲のない愛犬が美味しくご飯を食べられるように色々手を尽くしてあげましょう。

③ 散歩時に雄犬と遭遇する際には細心の注意を払う

生理中の愛犬の散歩時に、雄犬に遭遇すると、興奮した雄犬につきまといられるトラブルに見舞われる可能性があるため、十分に注意しましょう。生理中の雌犬は精神状態がナイーブなので、他の犬と散歩中に遭遇することで喧嘩に発展してしまうこともあります。もしも生理中に散歩に連れていく場合には、発情期間中は家の周りを歩く程度にするなど、他の犬との遭遇をなるべく避けることができるコースを選ぶようにしてください。

④ドッグランやドッグカフェのルールを守る

ドッグランやドッグカフェも、他の犬と遭遇してトラブルとならないように、ルールを守って利用するようにしましょう。特に、生理中の場合には入場お断りなどになっている場所も多いので、その際には無理に連れて行こうとせず、家で愛犬を休ませるようにしてください。

ノミ・マダニに関する最新情報をチェック!

📍 LINE 公式サイト LINE@友達募集中 →

